

第2回池田市総合計画審議会 議事要旨

日 時：令和3年8月5日（木）15：00～16：40

場 所：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：（外部委員）

中川会長、金子副会長

浅田委員、荒木委員、池上委員、板谷委員、大島委員、岡本委員、門屋委員、北川委員、喜多村委員、栗田委員、ゲレンチェール委員、眞田委員、渋川委員、清水委員、高野委員、多田委員、田和委員、畑中委員、林委員、茂籠委員、若本委員（50音順）

（内部委員）

元平委員、岡田委員、田淵委員

<事務局>

総合政策部 水越、SDGs政策企画課 岩下、藤本、川本

傍聴者：0名

1. 開会

事務局より出席者の紹介、委員の交代について説明及び、開催方法について確認。新たに就任となった委員よりあいさつがあった。

2. 案件

（1）総合計画策定の進捗状況について

事務局より、資料1についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<会長>

ただいまの説明にご意見質問等はないか。

<外部委員>

3つの庁内策定チームの男性と女性構成比はどうなっているか。

<事務局>

手元資料として具体的な数値はないが、若手職員ワーキングチームには女性は半数近く、総合策定委員会と総合計画策定ワーキングチームについては、女性は各1名となっている。

（2）基本構想素案策定の背景となった池田市のデータについて

事務局より、画面共有による資料説明（本構想素案策定の背景となった池田市のデータについて配布済み資料）が行われた後、次のように会長より説明があった。

<会長>

ただいま資料の説明をしていただいたが、総合計画策定時によくご質問がある前計画の評価についての説明となっている。その評価のシステムとして、点検評価が導入されており、前計画の点検評価を受けて、そこで残るのは成果と残された課題となる。

次期総合計画においてはもちろんそこを踏まえないといけないが、それに加えて背景にある社会状況の変化に対応した新たな課題があるのではないかという点も考えなければならない。そういった点を委員の皆さんのご見識によって点検していただき、より良い計画にしていくといった背景に係る説明だった。委員よりご意見ご質問はあるか。

なお、細かい作業は各部会で行うため、その際に細かい内容をご意見をいただくのでご懸念なきようお願いしたい。

(意見等なし)

(3) 第1回審議会の意見への市役所内部の検討結果について

事務局より、資料2についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<会長>

ただいまの説明にご意見質問等はないか。

<外部委員>

総合計画と、「まち・ひと・しごと総合戦略」の総合計画の関係性についてあらためて確認だが、この資料の中に、今回、第2期の「まち・ひと・しごと総合戦略」とずれてはならないという言葉がワーキングの中にある。第2期の「まち・ひと・しごと総合戦略」は昨年度に第2期ができて、結構細かくいろいろ作られているが、もし、そことずれてはならないとなると、総合計画で議論するというよりは、もはやあるものをある程度なぞらざるを得ないのかという印象をこの文言から受けたのだが、その辺りはどう考えておけばよいか。

<会長>

これについては事務局の方で答えてもらったほうがいいか。行政側の委員の方から答えてもらった方がよいかどちらがよいか。

<元平委員>

確かに、「まち・ひと・しごと」ということで計画を練っているが、それも5か年の計画の中で作っているため、その中で出てくるものについては、やはりイコールで考えていく。全部を一緒にしていくという意味ではなく、個別に見て行って、その方向性といったものは同じ方向性で考えてみると、そのように考えていただければと思う。

<外部委員>

5年間はまだすでに計画があるのだが、どのように捉えればよいか。

<元平委員>

今、5年間の計画があり、その方向性というものが「まち・ひと・しごと」で、方針としてはこれでやっていきたいので、それに基づいた総合計画といった観点で、方針としては同じ方向性だと思っている。そのため、もちろん具体的な部分になると、それをイコールに必ずこうしなければいけないという意味ではないと考えている。

<外部委員>

関係性としては総合計画があって、策定期間がずれるので、どうしてもタイミングがずれることによってそのようなことは起こりうるだろうが、どちらが優位であるのかというと、総合計画だという理解でよいか。

<元平委員>

その通り。

<会長>

今、元平委員が的確にお答えいただいたように、総合計画が最高上位計画で、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は国から作るよう依頼があったから策定している計画であって、それは基本的には総合計画側から出てくるという関係にある。それが逆転してしまうというのが本当は望ましくないが、国が第2期をまた出すように言っているため、ずれるかもしれないが横目でにらみながら、総合計画のほうが上だという位置付けは、やはり誤らないようにしていきたいということだと思う。

<外部委員>

理解した。

<会長>

他にご意見やご質問はないか。活発なご意見等は部会に分けたときにたくさんいただけるものと思っているが、今のところは、先ほど説明のあった「池田市の現状と動向」それから、「現総合計画の点検評価」の資料をいただいている。これらについての説明をあらためてしていただいたという理解をしておくべきかと思う。

今後、お手持ちのデータなどを基に、各部会に分かれてご参加いただくときに、積極的にご提起、ご発言、あるいはご提案をいただけたらと思う。

(4) 部会の再編成について

事務局より、資料3、4についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<会長>

3部会それぞれの所掌する範囲は資料3に書いてある通りとなっている。また、資料4の右側の破線で囲んである項目について、施策が分類されているのがお分かりになるか。

<事務局>

お手元の資料4施策体系案は今後変わる可能性もあるが、例えば地域共生社会という単語でいうと、地域、福祉、教育等、様々な要素が複合的に絡み合っている。そのため、そもそもどこに入るのかという課題が出てこようかと思うので、施策体系の整理をする必要がある。

現在のところ、今の組織の枠を超えるような情報にはなっていないが、組織をまたぐ形で1枚のシートを作成しなければならないと思っている。この体系に当てはまらない事項が出てきた際に、皆さまからのご意見をいただきながら再校正をする流れになると思う。今、お示ししているのはあくまでも第6次総合計画に則って、振り分けし直したものとしてご認識いただきたい。

<会長>

ご理解いただけるものとは思いますが、例えば自治総合部会1つ取っても、SDGsの担当に入っているが、このSDGsは全部門にわたって反映されねばならないことなので、一施策になるはずがないものである。また、Society 5.0も、それから官民連携も同様である。これも特定の部分だけが官民連携といえるものではなく、全部門にわたって考えなくてはならない。それから、地域生活環境・まちづくり部会でのシティプロモーションの、これは資料4では都市魅力の維持・創出、観光交流の推進、魅力発信と移住定住促進、地域経済循環の推進、全部に関わってくるという話なので、この部会の編成されている項目出しのテーマに意識を集中して議論をした方が、新しい体系になっていくのではないかというようなことを、私は勝手に想像している。

健康福祉・教育部会においても、Diversityというのは、まさしくそれで、特定のところで適用できる項目ではないため、第7次総合計画に投影する発想とすれば、この部会編成に出ている項目出しの方が新しい発想ではないかと思って取り組んでいきたいと、そのように事務局も思っておられると思う。

これで、今日予定している案件の審議は終了したが、改めて分からない点や、前の案件にさかのぼって分からない点、また、今後の作業に向けて発言したい等あればご発言賜りたい。

私は委員全員に必ずご発言頂きたいと思っているが、この会は本日26名となっており時間の関係もあるため、全体会に関してはご希望の方に発言頂き、部会に関しては委員全員にご発言頂きたいと思っているがよろしいか。ご発言希望の方はどうぞ挙手をお願いしたい。

<外部委員>

先ほどご説明いただいたシートサンプルについての質問というか、確認だが、シートサンプルの中に、市民の取り組みという項目がある。ということは、今回の総合計画の策定の基本方針は、いわゆる行政が行政の施策を作るためだけの目的で作る行政計画というものではなく、市民がきっちり市民の役割も明記して、それから行政は、これは行政だけではできないから市民と一緒にしないとできないと明記した、いわゆる公共計画であるという理解で合っているか。

<会長>

はい。私が事務局から聞かされているのが、そういう位置付けだった。行政計画ではなく団体計画。つまり池田市全体の計画ということだ。

<事務局>

おっしゃるとおりで、私どもに、かつてから掲げている自治基本条例といわれる「まちづくり条例」も、「みんなでつくるまちの基本条例」ということで、単なる自治基本条例ではなく、やはり皆さんと作っていきたいという思いが池田市にはある。かねてより地域分権や、もちろん当然のように制度化されているようなパブリックコメント手続き等、そのような当たり前のようなことは当然のようにさせていただくが、やはり今、この社会においては、パブリックコメントはあらためて振り返ると、やはり形式的なところがあり、ご提示して何かご意見があったらくださいといういわゆるパッシブな待ちの姿勢でいると、1件、もしくは1人の方から20件ほど寄せられるというような、極端な例になりがちな部分がある。

そうではなく、やはり例えば公共施設の再編1つにしても、ワークショップを開くなり、意見交換という形で皆様から広くご意見をいただくのが、今はスタンダードになりつつあることから、やはり今後、様々な方と一緒に進めていくのが行政、これは単に先ほど申し上げていた公務員の数というような1つにしても、少子高齢化のあおりというところもあり、なかなか我々のマンパワーを容易に増やすこともできない。そして単に、単純に増やすと今度は人件費がかさんでくることになりかねない中では、様々な方と一緒に進めさせていただくのがやはり現実的な世の流れとなっている。

先ほど会長からもご発言があったように、やはり私どもが市民の皆様への約束をさせていただくというよりは、むしろ市民の皆様との約束ということになる。市民というのは単に一個人の市民ではなく、法人、団体も、そして先ほど説明のあった関係人口、遠くからのふるさと納税等、何らかの形で応援いただくような方も含めて皆さまと一緒にさせていただけるような、そんなお約束とさせていただきたいという思いがやはりあるので、今、委員がおっしゃったように、やはりそのためには、我々だけがやることを書くというよりは、皆様にもやっていただけるようなこと、例えばこういったことがあるので是非ご協力いただきたいということ、どこかにやはり示させていただけるような流れがあれば、皆様と共に今後のまちづくりができるのではないかという思いは持たせていただいている。

そのため、いきなりこれをやってくださいと大上段に構えてということではなく、そういったものが実際に動くかどうかは、やはり素地づくりというか、日頃からの関係性といった部分がある。例えば、いわゆる普通の友達関係においても、日頃しゃべったこともないのに、いきなり来て馴れ馴れしく、何かしてほしいと言ったところで誰も受けてくれない。そのような部分の平生からの我々の姿勢づくりというところから変えていこうという、今からの取り組みということになるので、なかなか一朝一夕に進むようなことではないと思っているが、姿勢としてはそのように考えさせていただいているということでご理解いただきたい。

<外部委員>

行政の方からは、大上段にならないようにというのは、当然だと思うが、だいたいやっぱり最後の文言となったときに、こんなにはっきり市民にやってくれと書くのはいいのかという意見が、理事者の方を中心にしやすいので、もうそこはなるべくしっかり、市民がやらないとできない、そうでなければ池田市も駄目になるということを批判はあるだろうが強く表現していただきたい。また、計画策定の予算はこの自治体も取られているが、2年目以降の普及・広報の予算は広報セクションを持っているだけでほとんどない。だからそれをしっかり取って、やっぱり参加するプロセスまでつなげていければと思う。

<会長>

今、委員がおっしゃった趣旨は、地方自治の両輪といわれる団体自治、つまり行政、それと住民自治、コミュニティとかNPOとか頑張っている市民社会の自治、それがきちっと両方とも記載されねばならないというご提起だったと思う。それは私も当然のことと考えており、事務局もちゃんとその理解はさせていただいていると思っている。

最近このような、住民自治領域のやるべきことを書くというのは少しずつ増えてきたが、今までこれが記載されなかったのはなぜなのかというと、どうも戦後の復興と高度経済成長期、及びそれ以後のまだ土木建設が続いていた時期は、団体自治としては行政のやる仕事があまりにも多過ぎたという経緯がある。はっきり言って公共投資や、あるいは制度福祉の整備等がある。それが一定程度、現在のピークに達して次のステップに入ったときに、成熟社会というか、逆に今度は住民自治側の仕事というのがアピールされていく時代になってきたのではないかという、そういう反省の意味だった、新時代の総合計画に踏み込んでいきたいという、そういう考えをお持ちのように思うので、私もそれは同意している。委員のご提起は大変正しいと思ってお聞きしている。

それでは、次から部会に分けて作業をしていくに当たり、大変恐縮だが、部会長をお引き受けいただいているお二人に、それぞれ今後のご所見や、ご抱負について少しコメントをお願いしたいと思う。

<外部委員>

健康福祉・教育部会を担当させていただくことになった。今、市民の取り組みをどのように表現していくのかという議論があったかと思うが、先ほど事務局の方からのご説明で、

住みやすいまちランキングはすごく高いのに住みたいまちランキングは低いというご説明があった。福祉、健康、子育てや教育というのは、基本的に住みやすさであるとか住みたさに非常に大きく関わってくると思う。

今回、一緒に部会を担当していただく各委員の意見を集約というか、活発に議論することが今後の池田市の市民目線、団体目線、教育の目線、様々な目線での内容を吟味するときにはすごく大切なことだろうと思うので、池田のいいところもたくさん発見しながら、住みたいまちにしていけるようにするには、それぞれの立場、それから市民の立場でどのようにしていったらいいのかを、行政側の皆さんと一緒に考えていける機会にしていきたいと思い、とても楽しみにしている。

こちんまりと少ない人数でしっかりと議論をすることは、非常に面白い意見がたくさん出てきてすごく楽しい、わくわくするような会合だと思うので、とても楽しみにしている。

<会長>

突然のご指名で大変ご迷惑を掛けたかもしれないが、ご勘弁いただければと思う。ご発言に感謝する。続いて、よろしくお願ひしたい。

<外部委員>

地域生活環境・まちづくり部会ということで、多種多様な分野を扱うことになるかと思うが、委員の方も多種多様な専門分野で知識をお持ちかと思うので、議論を深めていければと思う。

その中で、この部会の特徴として1つ目はインフラ、ハード的なものをどうしていくか。もう1つは攻めの分野ともいえる、シティプロモーション、魅力創出、観光、産業商工等、新しく池田市が必要としていくような要素、そういった部分をどう戦略的に生み出していくか。いわばハードとソフトそれぞれ融合というか、混ざったような形で将来の池田市の方向性をどう見出すか、重責を担うような部会になるかと思っている。

それぞれの分野で皆さんが精通しているわけではないので、皆さんに頼らせていただいているところも多いと思うが、皆さんの意見を互いに聞きながら、和気あいあいと進められたらと思っている。

SDGsやSociety 5.0など全体を包み込むような、全体で方向性を決めていけないといけないテーマは、いわば計画の横串になると思うので、こういった横串のところは、我々の部会でも意識しながら、様々な議論を効率的、効果的に進めていきたいと思う。

<会長>

私があずからせていただいている自治総合部会で部会長というのはちょっと僭越で、むしろ、大阪市立大学、大阪大学からお越しいただいている各先生に助けていただきながら進めていくというつもりでいる。大変恐縮だが、一言ご抱負をおっしゃっていただいたらうれしいが、いかがか。

<外部委員>

自治総合部会というところの委員を仰せつかった。先ほどのお話にも少し出ていたが、こちらの方では、例えば行財政改革とか、ある意味、計画を進める上での基礎となるコアなところの仕組みをいろいろ審議、議論をしていく場なのかな、などと思いながらそのお話を伺っていた。

ただ、どうしてもここ数十年の改革というリストラ、削る方、縮小する方だというような勢いで走ってきたところであると思うが、ただ、新型コロナで、いわゆる公の領域、行政の領域っていうのは削り一辺倒だけではどうにもならないというところもまた見えてきたのではないかと、これは本当に私の単純な私見だが、やはり感じられてきた。

そういう意味では、今までのような、削ればいい、民間に出せばいい、そういうことだけではなく、行政として、さらには市民と協働してできる何かというものがつかめれば、などと思っている。

<会長>

では今後に向けて、今日は行政側から委員が3人参加していただいているが、先ほどからご答弁いただいた元平委員は2回ご発言くださったので、今日のご負担が大きかったかもしれないが、以後もよろしくお願ひしたい。では、岡田委員、田淵委員、一言ずつ、今後に向けての委員会に対するご期待やご抱負を述べていただけたらありがたい。

<岡田委員>

先ほど資料のいろいろな過去の経緯からの説明もさせていただいたが、人口1つ取っても、今後10年を考えていく総合計画なので、なるべく直近のデータを使えるようにと考えているが、国勢調査にしても2015年ということは、もう5年前以上前になっているので、なるべく最新のデータを使いたいと思っている。大阪府下でいうと北摂は人口が伸びていると言われる中で、池田市においても若干だが、5年間で2,000人ぐらい増えているというデータが出ているので、そういったものを活用しながら、一番直近に即した総合計画にしていきたいと思っているので、ご協力をよろしくお願ひしたい。

<田淵委員>

先ほど池上先生がおっしゃったように、教育をめぐる課題というのは非常に山積をしており、今、大きく急速に社会情勢も変わる中で、教育の考え方について、今後どのような方向性で考えていくのか、様々に課題を感じているのが現状である。

また、学校教育の分野では、昨年度は小学校、今年度は中学校ということで、新しい学習指導要領に基づいた教育課程を実施しているところだが、昨年度から非常にコロナの関係でいろんな学校教育が制限される中で、何とか進めている状況にある。コロナが後押ししたのかどうか分からないが、ギガスクール構想ということで、一挙に子どもたち1人1台タブレットの環境をつくろうということになり、本市も昨年度、国のいろいろな補助の下で整備を進めてきた。ただ、子どもたちが1人1台タブレットを活用してどんな授業を

していくのかというところが今後、教育課程を進めていく上での方向性と相まって大きな課題として感じている。

また、生涯学習の方についても、文化、スポーツ、多くのことがこのコロナで制限される中ではあるが、今後の生涯学習の在り方というか、そういうところに様々な市民の方々のご意見もいただきながら、今後どう進めていくのかということをしっかりと考えていく良い機会にしていきたいと思います。

3. 閉会

事務局より、次のように事務連絡が行われた後、副会長による閉会挨拶が行われた。

<事務局>

本日は様々な観点からご意見を頂戴し感謝申し上げます。次回以降については、各部会での審議をお願いしたいと思っています。案件4で説明させていただいた通り、総合計画策定ワーキングチームで作成した基本計画の施策シートに対しての意見を頂戴することになるのでよろしくお願いしたい。事務局から説明させていただいた通り、施策シートに関しては、各部局のヒアリングで提示させていただき意見交換を行う。その中で、部局横断的な施策シートも出てくるかと思っています。部会の日程については改めて調整をさせていただきます。

また、所属する部会以外への部会にオブザーバーとしてご参画される委員の方々には、各部会でSDGsをはじめ全体に係るようなお話についても共有いただければと思う。また、他部会の審議内容については資料や議事録等で共有させていただくが、全部会の日程は皆様にも共有させていただくので、もしお時間が許すようであれば、他部会の議論の内容も見て頂きご自身の部会での意見に反映して頂ければと思っていますのでよろしくお願いしたい。もちろん、今回の審議会の議事録につきましても、ホームページに公開し共有させていただきます。

<副会長>

本日はお忙しいところ、ご参加いただき感謝申し上げます。コロナ禍のため、オンライン等このような形で多少なりとも不便を感じながらではあったが、第1回、第2回と審議を重ね、落ち着いた審議ができてきたと感じている。

本日は、部会についての委員も確定したので、次回以降は各部会で詳細な議論ができればと思う。また、委員の皆さんには個人の見識や経験、思いを十分に発揮していただき、有意義な審議会になるようご協力のほどをお願いしたい。コロナ収束の兆しが見えず、本日も猛暑だが、皆様ご自愛よろしくお願いしたい。

以上